

実践例⑤

教科(科目)	古典B	授業者	青ちづる
日時	平成 28年 10月	対象・場所	2年1, 2, 5組
単元	「大鏡」を脚本化して演じてみよう		
時間数	全6時間		
・ 本 時 過 程	<p>1 グループ6名程度とする。</p> <p>① 1～3時間目は準備の時間とし、生徒が本文の口語訳から脚本化までを行った。口語訳をネットで調べることは禁止とし、辞書や文法書を使って、自分たちで訳していくように指示した。どのような小道具を作るかも自由とした。なお、教師側で、共通の小道具として、登場人物の名前を書いたプレートと、敵・見方がすぐわかるように色分けした衣装を用意した。</p> <p>② 4～5時間目を発表の時間とした。他の班の発表を見ている時には、自分の班との解釈の違いや疑問点などを自分の脚本に書き込むように指示した。</p> <p>③ 発表後、教師から内容や人物関係の説明を行うとともに、各班の脚本についての講評も行った。</p> <p>④ 最後に振り返りのアンケートに回答させた。</p>		
反 省	<p>すべて自力で口語訳させた結果、全然違う話になっている班があったり、人物関係が正しく把握できていなかったりする班が多く見られた。特に、二つの勢力の対立という点については踏み込んで表現する班がほとんどなかったのが残念である。そこまで求めるならば、補助資料などを用意した方がよかったのかもしれないという反省を抱いた。また、文法事項の確認が不十分で、そのことを不安に思う生徒もいたので、この取り組みの後、別のプリントで復習を行った。</p> <p>ただ、生徒の取り組みはたいへん積極的で、時間を追うごとに準備にも熱が入り、よりよい劇にしようとする工夫が見られた。本番では、他の班の発表を見ながら、自分たちと違う解釈に驚いたり、新たな疑問を抱いたりしていた。教師からの講評が「謎解き」の役割も果たしたが、その役割も生徒自身がある程度できるようになれば理想的であると思う。</p> <p>以下は生徒のアンケートの抜粋である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わからないところは聞いて、わかるところは教えて・・・その繰り返しの中でつく力はきっと大切になってくると思います。これからも是非とりいれてほしいです。</li> <li>・最初は何のヒントもなしで自分たちで訳して劇をしたので、後から先生に解説してもらった時に、自分たちが間違えて解釈していた部分がよくわかりました。</li> <li>・劇をしないといけないので、話を理解しようという気持ちが強まり、意味をしっかりと考えることができたと思います。</li> <li>・全体の話の内容を確認するときはすごくいいなと思いました。細かい訳や文法の所は一斉授業の方がいいと思いました。</li> </ul>		

☆「南院の競射」のシーンを脚本化しよう。

＜記入例＞  
帥殿  
→人物名

↑行動や心情を書き込む  
「今日は集まってくれてありがとう。ともに競射を楽しもう。」 ↑セリフは「」をつけて書く

帥殿の南院にて人々集めて弓あそびしに、この殿渡らせ給へれば、思ひかけずあやしと、中関白殿思し驚きて、いみじう憂慮し申させ給うて、下藤におはしませど、前に立て奉りて、まづ射させ奉らせ給ひけるに、帥殿の矢数、いま二つ劣り給ひぬ。

ナレーション

ある日帥殿は、**平安時代**競射をしたいと思い、南院に人を集めることにしました。

帥殿  
中関白殿

「比白の方を向いて提案する。」

「南院に人々を集めて競射をしよう。」 ↓裏の競射の主要な者は中関白殿

「いいですね。では明日行いましょう。」 ↓裏の競射が始まるうと

「予期せず入道殿が来たことが不思議だと驚く。」 ↓表面上は入道殿をよくあつかう

「中関白殿は入道殿が来たことに驚き、帥殿の機嫌を取ることにしました。」

ナレーション

「今日は来られたんですね。」

「そうみたいです。」

「ですが、帥殿の方が上手いのですから大丈夫ですよ。」

「帥殿の方が位が高いが、前に立って射ることにしました。」

「前に出て矢を二本放った矢は二本も当たらない。」

しかし、帥殿の放った矢は二本とも当たりました。

帥殿と入道殿が勝負へして  
帥殿が二本当たるのが多かった

↓帥殿が  
位が高い  
競射は

ナレーション

しかし、帥殿の放った矢は二本も当たりました。

ナレーション

しかし、帥殿の放った矢は二本も当たりました。

ナレーション

しかし、帥殿の放った矢は二本も当たりました。

ナレーション

しかし、帥殿の放った矢は二本も当たりました。

ナレーション

しかし、帥殿の放った矢は二本も当たりました。

歴史物語 大鏡 「南院の競射」

年 組 番 氏名 (

☆「南院の競射」のシーンを脚本化しよう。

<記入例>

帥殿

↑行動や心情を書き込む

→人物名

↑セリフは「」をつけて書く

帥殿の南院にて人々集めて弓あそびしに、この殿渡らせ給へれば、思ひかけずあやしと、中関白殿思し驚きて、いみじう饗応し申させ給うて、下臈におはしませど、前に立て奉りて、まづ射させ奉らせ給ひけるに、帥殿の矢数、いま二つ劣り給ひぬ。

---

中関白殿、また御前に候ふ人々も、「いま二度延べさせ給へ。」と申して、延べさせ給ひけるを、安からず思しなりて、「さらば、延べさせ給へ。」と仰せられて、また射させ給ふとて、仰せらるるやう、「道長が家より帝・后立ち給ふべきものならば、この矢当たれ。」と仰せらるるに、同じものを中心には当たるものかは。次に帥殿射給ふに、いみじう臆し給ひて、御手もわななく故にや、的のあたりにだに近く寄らず、無辺世界を射給へるに、関白殿、色青くなりぬ。

また入道殿射給ふとて、「摂政・関白すべきものならば、この矢当たれ。」と仰せらるるに、初めの同じやうに、的の破るばかり、同じところに射させ給ひつ。饗応し、もてはやし聞こえさせ給ひつる興もさめて、こと苦うなりぬ。父大臣、帥殿に、「何か射る。な射そ、な射そ。」と制し給ひて、ことさめにけり。